百鬼園讃

百田宗治

青空文庫

以前田舎へ旅行すると、昔「出家とその弟子」を書いた倉田百三氏とよく間違へられたことがある。倉田百三の田百を引繰り返すと僕の姓になるからである。が、近頃では内田百閒だ。これがまた田百である。どうも私の姓を逆用した人はみな有名になるやうである。

かういふ間違ひ方をされるといふことは、正直にいふと甚だ不快である。百田など問題でなく、田百でよいのである。無視されるといふだけならなほよいが、田百でなければ通用しないなど甚だ以つて業腹である。

当たり前なら、さういふ侮辱を感じさせる内田百閒のものなど決して読まないのだが、ふとした機会で、不名誉にもいつの間にか僕も百閒フアンの一人になつてしまつた。ある日伊藤整のところへちよつと寄つたところ、その本箱の中に百鬼園が二冊（一冊は「冥途」といふ小説集であつたが）も入つてゐたので、どんなものを書いてゐるかナと云つて、ちよいと覗いて見たのが不可なかつたのである。伊藤が貸すといふから、借りて帰ると女房がまづそれに取憑かれてしまつた。六畳の椅子の上へ載せておいたら、こんどは三年生の子供がまたそれに取憑かれた。それからいよ〳〵私に伝染して来たのである。

此間、版画荘でその百閒先生にはじめてお目にかゝつた。百閒先生は盛夏の午後三時頃の版画荘楼上へ、黒い羽織を重ね黒足袋に爪皮のかゝつた日和下駄を履いて、それをカチ〳〵鳴らしながら、蝙蝠傘をかゝへて入つて来られたのである。その時はじめて百閒全輯刊行のことを聞いた。

百閒全輯を刊行するなどは、まるで嗜眠性脳炎の病菌を無際限に播布するみたいなものである。コロリコロリと向ふでも倒れ、此方でも倒れることであらう。金槌を持つてそいつら共を片端から一人二人と叩きつけて歩きたいものである。（九月四日草す）

青空文庫情報

底本：「回想　内田百閒」津輕書房
　　1975（昭和50）年8月31日初版発行
※『全輯　百間隨筆』は昭和十一年十一月より翌年四月まで、全六巻・版画荘から刊行されたものですが、底本のテキストは、「『全輯　百間隨筆』内容見本」によります。
入力：磯貝まこと
校正：岡村和彦
2016年9月9日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

百鬼園讃

百田宗治

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/